

# エクササイズ 1

## exercise

### 事物へのアプローチ

---

人間はことばを用いる動物と言われます。ことばで様々なことを言い表わし、コミュニケーションをします。ところで、ことばは、どんなことでも言い表せるのでしょうか。思うように言い表せない、なかなか言い表すのがむずかしいといった経験はないでしょうか。次の問いに答えながら考えてみましょう。

---

#### 問い（１）

次ページの地図（図1）には、（東京都港区立）青山小学校という小学校があります。みなさんが、今、秩父宮ラグビー場前交差点にいて、通行人に「青山小学校はどこですか？」と尋ねられたとします。

秩父宮ラグビー場前交差点から青山小学校までの道順を（ことばで）説明しなさい。



図 1

## 問い ( 2 )

図2は、ジョルジュ・ブラックの『ギターを弾く男』という作品です。どんな作品であるか、これを見ていない家族の人や友達のために、できるだけ忠実に、詳しく説明しなさい。

## 問い ( 3 )

図3は、ある女性の肖像です。どんな人か、見ていない人に説明しなさい。



図 2



图 3

## 解説

### ( 1 ) ことばは一度に一つのことしかいえない

秩父宮ラグビー場から青山小学校までの道順を示してみましょう。およそ次のように言えるでしょう。

「秩父宮ラグビー場前から南へ( 進行方向へ )250メートルほど行くと、国道246号と交わる外苑前交差点にぶつかります。そしたら、交差点を横断します。横断して左手に行くと、地下鉄銀座線の外苑前駅の出入り口があります。出入り口のところに、右手に入る第一番目の小路があります。そこから50メートルほど行くと、右手に入る第二番目の小路がありますので、その小路に入って、まっすぐ進んでください。まもなく、左手に青山小学校の校庭が見えてきます。」

このような説明を聞いて、ちゃんと覚え、「はい分かりました。ありがとうございます。」といえる人は少ないでしょう。地図を書けばすぐに理解できることなのに、ことばにすると、とてもややこしく、わかりにくいものになってしまいます。なぜでしょうか。

地図を見ながらであれば、まず今いる場所( 秩父宮ラグビー場前 )と目的地( 青山小 )が確認できます。それから、外苑前交差点、地下鉄駅、青山小の位置関係を経路として引くことができます。この経路はどちらが先で、どちらが後ということはありません。つまり時間的な前後関係は問題にならないのです。地図上では、同じ平面に、同時に表されています。視覚に訴える形( 図形 )は、いっぺんに複数のものを見ることができます。それに対して、ことばでの説明はどうでしょう。ことばでは、まず、基準点を決めて、そこから、経路を一つ、一つ順を追って説明していかなければなりません。ことばは、一度に二つ以上のことを言い表すことができません。時間軸上に、ある順序にしたがって、要素を並べていかなければならないのです。道を説明するときも、したがって、「そしたら」とか「まもなく」とか、「それから」とかいうようなつ

なぎのことば（接続詞）が頻繁に用いられることになります。

ことばが一度に二つ以上のことを言えないということは、  
(i) いろいろな語（あるいは語句）から、そのつど、一つを選択しなければならない。

(ii) 選択した語（語句）を時間軸上に並べなければならない。  
ということでもあります。比喩的に言うならば、縦軸で選択した要素を横軸に投射して配置する、ということです。当たり前のことのようにですが、これこそ、ことばのもつ最も根本的な性質です。これを言語の線状性（リネアリティ）といいます。人は、色や形、音、身体の運動など様々な方法を使って、思考や感情を表します。ことばだけが表現のメディアではありません。言語学は、ことばというメディアが、他のメディアとはちがって、どんな性質をもち、どんな働きをするのかを学ぶ学問といえます。

## （２）ことばは言及対象をもつ

さて、次の問いは、立体派の画家の作品です。絵の内容をことばで忠実に記述し、再現するのは容易ではありません。特に抽象画をことばで言い表すのは至難の業です。というより、不可能なのです！参考までに、手元の美術解説書には、次のような説明があります。

「1914年春に制作された《ギターを持つ男》は、ブラックのキュビズムの最後の局面を示す作品の一つである。ギターやマンドリンはパイプや瓶などと並んでキュビズムの静物画にはなじみのモチーフだが、ここでは人物とともに登場する。分析的キュビズムの時代にも人物と楽器と一緒に描かれたことがあるが、形態は立体感をもって分析され画面上にリズムカルに配列されていた。この作品では分析された形態が画面に平行に重ね合わせるように配列され、秩序ある落ち着きを示す。随所に見られる点描技法は新たな展開を暗示している。」（『パリで出会う名画50』（小学館）88ページ）

確かに解説は、作品理解には役立ちます。けれども、この説明だけを読ん

で、ブラックの絵を想像するのは不可能といわざるをえません。ブラックの絵からはギターもパイプも識別できません。できても、なるほどこれぞギターだ、パイプだ、という実感はないでしょう。ブラックはギターやパイプを描いたわけではありません。では、何を描いたか。そこで、画面上の形態、配列、構成、技法などに注目して、それを説明するのがことばです。ことばでは、色や形そのものを表すことはできません。ことばは、様々な点に注目して、その角度から、対象に言及するわけです。

今度は、先に次の説明を読んで、どんな絵だか思い描いてみてください。音楽評論家の吉田秀和氏の『セザンヌは何を描いたか』（白水社）の一節です。

「これは五人の裸の女が木の下にいる絵である。女たちは横になったり立ったりしてはいるが、どれもほぼ一線に並んでいる。絵の手前は緑（草原だろう）、つぎは青（水―たぶん川だろう）、その上は灰色、褐色、黄色等々の混ざった領域（空でしょう）。そうして絵の両側には二本のかなり太い木が立っており、その木からは枝が出、枝には葉っぱがしげっている。」

この説明は、セザンヌ芸術に造詣の深い評論家の目を通して、注目されたセザンヌの作品です。まず「五人の裸の女」が言及されます。どんな感じの女でしょう。若いのか、年輩なのか、美人かどうか...それに関しては一切情報がないので、この説明からは分かりません。ことばによる説明や描写は、何かに注目して、それに関して言及する、というやり方しかありません。したがって、絵そのものを説明するというよりも、話し手の観点から、その絵がどう見えるかという表現の工夫が問題となってきます。

ところで、参考までに、この 五人の水浴の女 は次のページの図4のとおりです。みなさんの想像した絵のとおりだったでしょうか。



図 4

### ( 3 ) ことばは知識を参照する

問い( 3 )は，どんな人かを記述するエクササイズです。みなさんが，仮に，犯行現場で犯人の目撃者になってしまったとき，証人として，その犯人をどのように描写すればいいでしょう。顔の特徴を一つずつ言ってみましょう。顔の輪郭は？髪の様子は？目の形，色は？鼻は？口は？他に特徴は？左目の下に小さなほくろがある，など。絵の描写と同様に，ある観点に注目して，そこから記述をします。その人物は誰に似ていますか？写真の人物は，女優さんなら，ちょっと，山田五十鈴さんに似ています。そういっても，その女優さんのことを知らなければ，ピンときません。藤原紀香さんに似ている，といえば，ピンときてもらえるでしょうか。このように，人物を表現しようとする時，私たちは，共通して知っている有名人などに照らし合わせて，それによく似た人とい

う接近法を試みます。ことばで表現するとき、そのものの自体を描写することが不可能なので、ときに、何かとよく知っている知識と比較参照しながら、対象に迫っていきます。

## 言語表現の工夫

ことばで伝わらないわけではない。けれども、やってみるとむずかしいのが、味やにおいなど感覚を表したいときです。テレビなどでよくグルメ番組をやっています。リポーターやゲストのタレントさんが味見をして、「おいしいーっ」なんて感動的というのを耳にします。おいしい、まずいも味を表すことばですが、その人の味わった味を的確に表したものではありません。どのようにおいしかったのか、言ってほしいものです。例えば、世界一のソムリエ（ワイン利き）になったジャン＝リュック・プトー氏というフランス人が言っています。「ワインの中に何かを感じたら、すぐに書かなければならない」と。ワインの味といっても、いろいろあり、どのように表現してよいのか困ってしまいます。プトー氏は「自分が感じたままを表現しようとするのが大切なのです。いいですか、ワインには無数のアロマがありますし、歴史もあります。それぞれのワインの歴史なり地理的要素なり、味わいなりを活かしてやらねばなりません。ワインが料理に添えるために作られていることも忘れてはなりません。だから、ワインが与えてくれる楽しみを余すことなく引き出すように努めることが大切なのです。私は自分の周りにあるもの、自然の中にある要素を集めようと努めています。アロマとか花とか、ミネラルとか。古いワインなら動物的な要素もあります。毛皮の匂いやなめし皮の匂い、野獣を思わせるような匂いもします。新しい櫛の大樽で熟成させたワインなら、煙の匂いや焚き火の匂い、コーヒーの匂い、焙煎の匂いがします。朝霧が降りたときの薔薇の香りをかいだことがありますか。えもいわれぬ香りです。」\*

味や香りを表現することは、その料理や素材の歴史、風土、個人的な記憶や経験などいろいろな要素を表現することでもあります。こうなると「おいしい

\* 月刊フランス情報誌『フラン・パルレ』2000年11月号より引用。

い」というだけではすまされません。「朝霧が降りたときの薔薇の香り」がどんな香りなのか、きっと芳醇で、官能的で、あいまいに漂う香りなのでしょう。

このように、実際に見たり、聞いたり、感じたりする事物そのものをことばで表現することはできませんが、だからこそ、人は、いろいろなことばを工夫して言い表し、相手に伝えようと努力するのだといえると思います。そこから比喩（喩え）、メタファー（暗喩）、ほのめかし、あるいは引用など、レトリック（修辞法）が必要となってきます。ことばで何かを表す根本には、こうしたレトリックのはたらきがあります。

## 課題

次ページの図5は縄文土器です。ことばで忠実に写実しなさい。

### 参考文献

本多勝一（1982）『実践・日本語の作文技術』（朝日文庫）



図 5